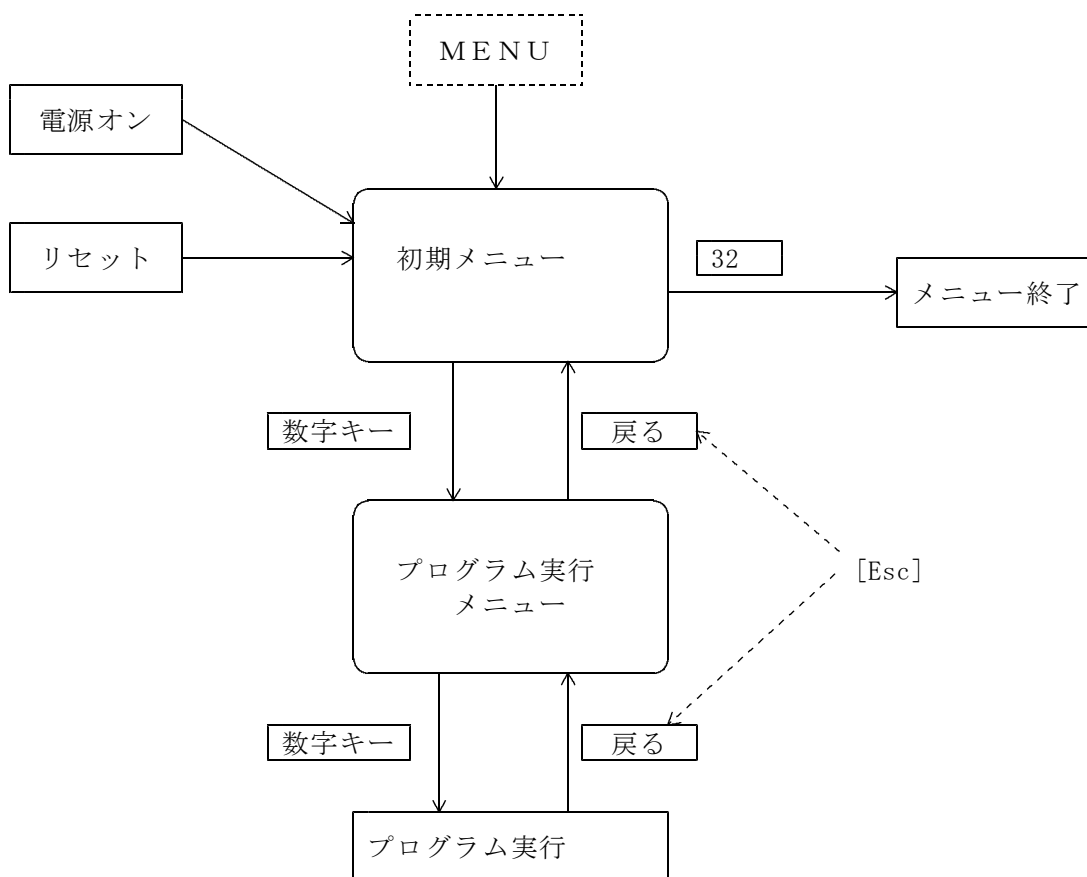
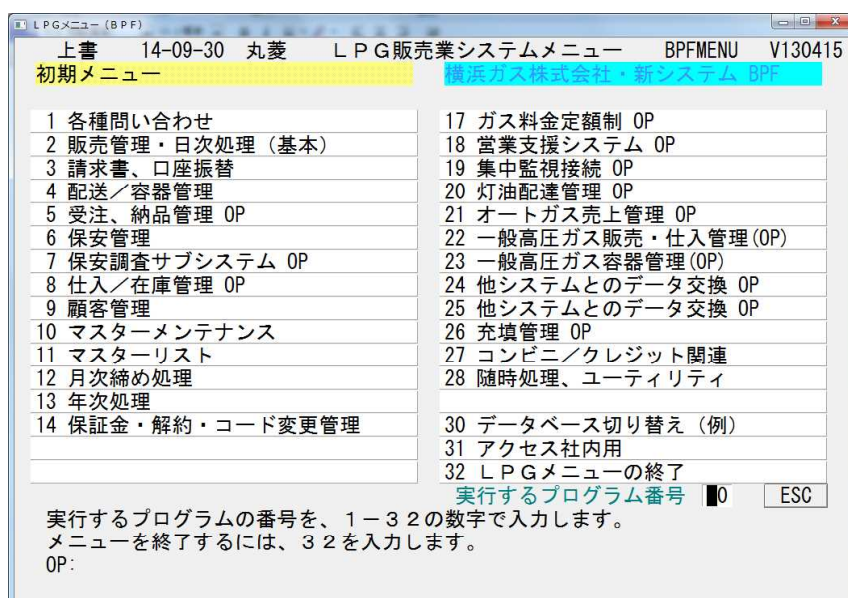


## 2. 業務プログラムの実行

## 2.1 メニューの操作



メニュー画面



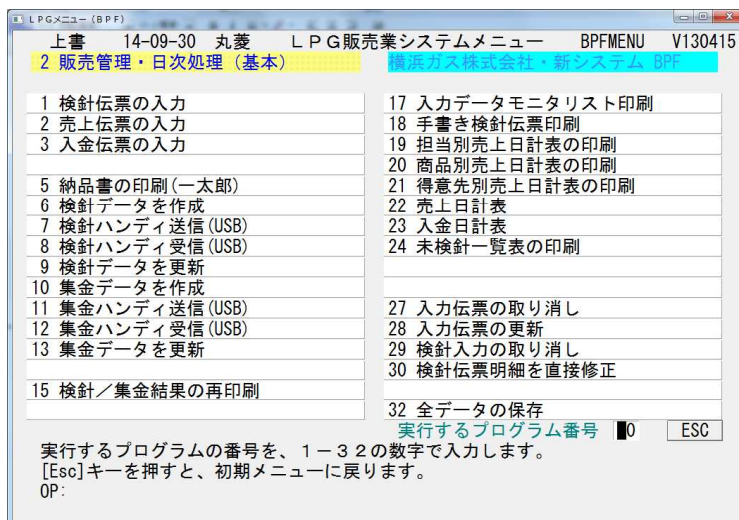
メニューは、「電源オン」、「リセット」、「LPGメニュー」アイコンを押したときには、常に初期メニューが表示されます。初期メニューから直接実行するプログラムはなく、下位のメニューに切り換えてから実行します。

メニューから何かを実行するには、1～32の数字で画面の項目を指定します。例えば、初期メニュー画面から、「販売管理・日次処理（基本）」を実行するには、

[ 2 ] 「Enter」

とします。この後下位画面になりますから、例えば、「売上傳票の入力」を実行したければ、

[ 2 ] 「Enter」



とします。

メニューを上位に戻すには、

[Esc]

とします。初期メニューで、32を入力するとメニューが終了しますから、注意して下さい。間違っても、メニューを終了してしまって、もう一度たち上げたいときは、

「LPGメニュー」アイコンをダブルクリック

します。コンピュータを再起動しても、メニューは起動されます。

## 2.2 プログラムの実行/終了

表示されているメニューから、該当のプログラムを見つけ、メニューの番号を数字で、入力します。

メニューから起動後、キー入力が可能になるまで

準備中です。少しお待ち下さい。

という、メッセージが表示されることがあります。このメッセージが表示されている間は、何も入力できませんから、メッセージが消えるまで、数秒待つて下さい。

処理プログラムが準備完了すると、そのプログラム固有の画面が表示されます。このとき、ファンクションキーは、すべてに共通で、次の意味を持っています。

F 1	: キー入力の訂正。項目を1つ戻す。
F 2	: コード順に次に移る。
F 3	: 検針順に次に移る。
F 4	: コードの逆順に移る。
F 5	: 名前による得意先の検索。
F 6	: 名前、住所の部分検索。
F 7	: 次画面の表示。
F 8	: 前画面の表示。
F 9	: 確認「イエス」
F 1 1	: 確認「ノー」
E s c	: プログラムを終了して、メニューに戻る。

実行するプログラムによっては、上記のように、画面の最下行にファンクションキーのガイダンスが表示されるものがあります。

**Esc** キーを押すと、プログラムはその時点でただちに終了します。従って、データの入力中に誤って押すと、そのデータは入力/更新されず、コンピュータの中では以前のままです。

## 2.3 プログラムの実行を中断

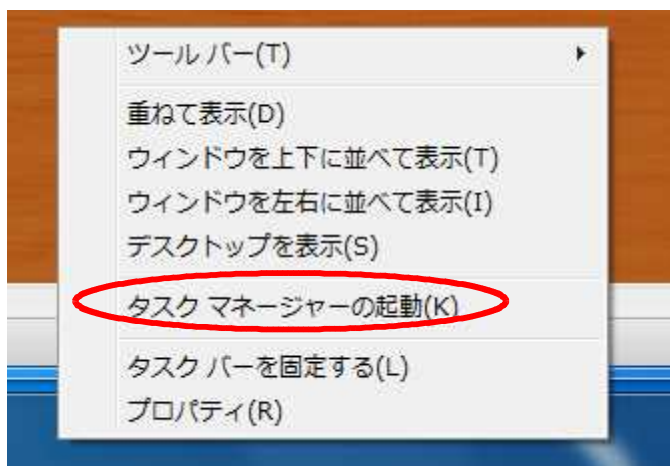
実行中のプログラムを強制的に中断する方法です。印刷中のプログラムや実行時間が長くて、途中で止めたいときに使用します。

Windows 7 の場合で記述しています。

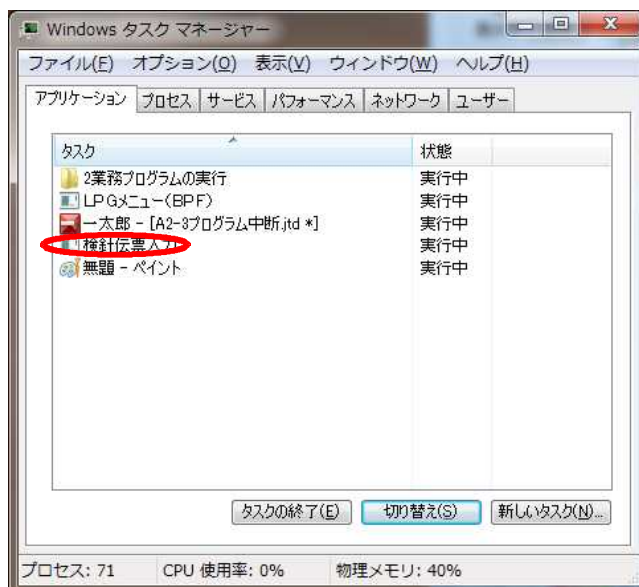
データの入力待ちの状態では、通常 [Esc] キーで正常に終了して下さい。  
印刷中のプログラムは、ほとんどデータの更新を伴っていませんから、中断してもデータには影響はありませんが、印刷なしでデータ更新に長時間を要するプログラム（例えば、月末締め処理）もありますから、それを中断する場合は、サポート担当者に相談して下さい。

- (1) [Ctrl] と [Alt] を押しながら、[Delete] キーを押します。  
「タスクマネージャー」を起動します。

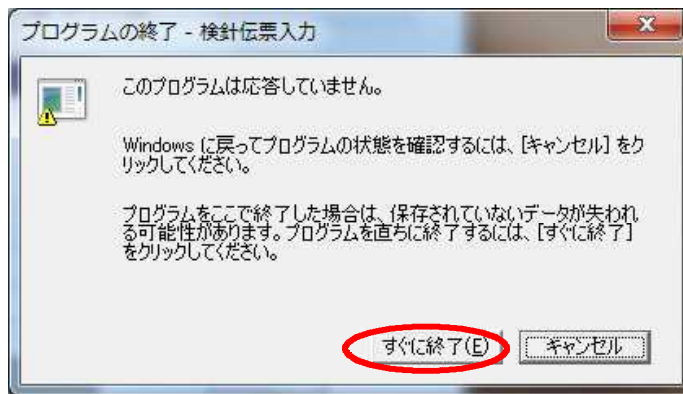
[タスクバー] を右クリックしても同様の画面が表示されます。



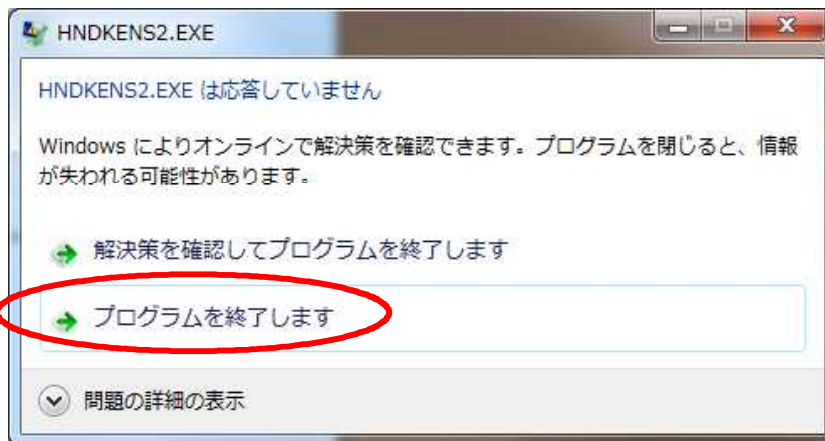
- (2) 「タスクマネージャー」の「アプリケーション」をクリックします。



- (3) 終了したい、プログラムをクリック（通常は、今実行しているものになっている）して [タスクの終了] をクリックします。



このような画面が表示されるので、[すぐに終了]をクリックします。  
さらに、次のような画面が表示されたら、「プログラムを終了します」をクリックします。



数秒で、タスクマネージャの画面から、プログラムが消えます。

- (4) タスクマネージャを閉じて下さい。

## 2. 4 印刷ジョブの削除

<プリントサーバを使用しているときの、印刷データ削除方法です>

すでに、サーバーに転送されてしまった印刷データを削除したいときがあります。

- ①紙がつまったので最初からやり直したい。
- ②まちがって、いらないものを、たくさん印刷してしまった。
- ③印刷するプリンタを間違えた。
- ④紙の位置があっていない。

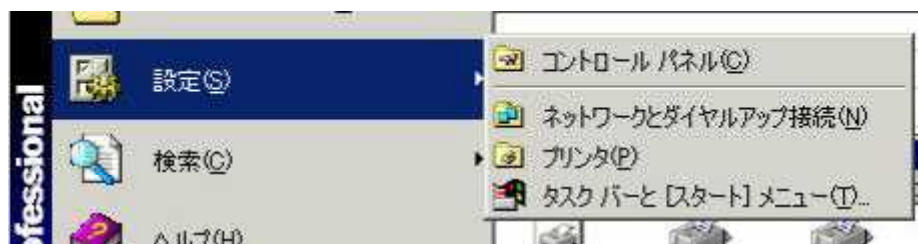
このようなときには、次の手順を行います。

- ①印刷を処理しているプログラムを終了させます。  
(前項の「プログラム中断」で行います。)  
すでにプログラムが終了していれば、この操作は不要です。

以下の操作は、プリンタの接続されているパソコンで行って下さい。  
LANケーブルで接続されているプリンタであるならば、自身のパソコンでも良いです。  
他のパソコン経由で印刷しているときは、そのパソコンの画面で操作して下さい。

- ① [スタート] をクリックし、設定にカーソルを合わせます。  
次のような画面が表示されるので、「プリンタ」をクリックします。

※「スタート」をクリックしたときに、すぐに「プリンタ」フォルダが見えるように設定されている場合もあります。



- ②プリンタフォルダが開かれます。



LBP-430は例です。  
コンピュータの構成によって  
名称は異なります。  
通常プリンタの機種がわかる  
ような名前を付けています。  
(名前の変更は可能です)

- ③LBP-430を開きます。





④例えば、2番目の印刷待ちデータを削除したい場合



ドキュメント名を、クリックして、上例のように反転表示させます。  
このまま、「Delete」キーを押すと、2番目は削除されます。

全部を削除したいときは、  
プリンタ(P) --> 印刷ジョブのクリア(U)  
の順にクリックします。

<削除しても、すでにプリンタに転送されたデータは、印刷されます。そのデータを削除したいときは、プリンタでリセットを行って下さい。リセットのしかたは、プリンタによって異なります。>

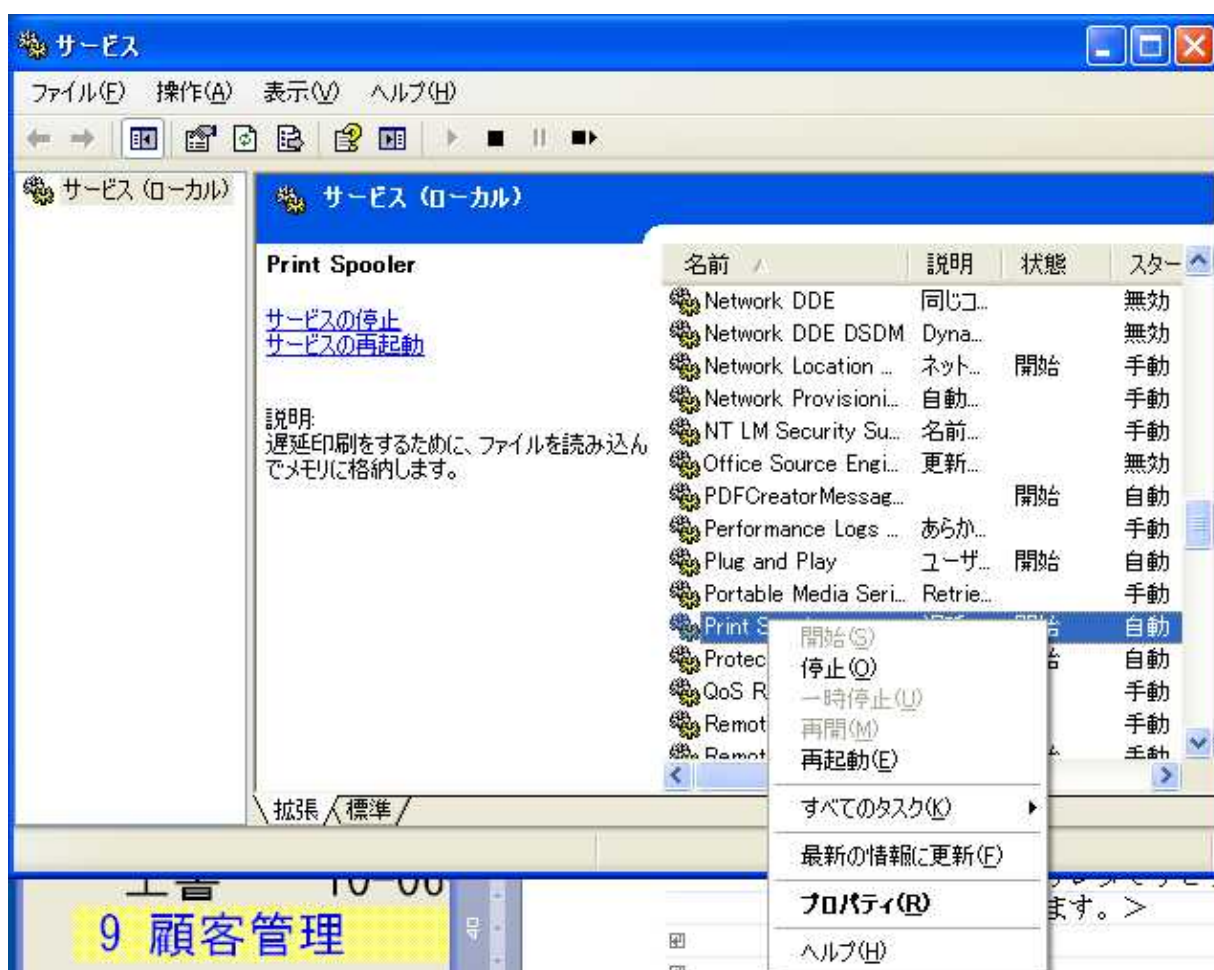
**通常は、電源のオフ、オンで行います。**

ここまで削除して再開（プリンタをオンライン）したときに、印刷が終了しない場合があります。それは、Windowsが、エラーを判断して、再試行をしているためです。その場合は、次の操作を行って下さい。

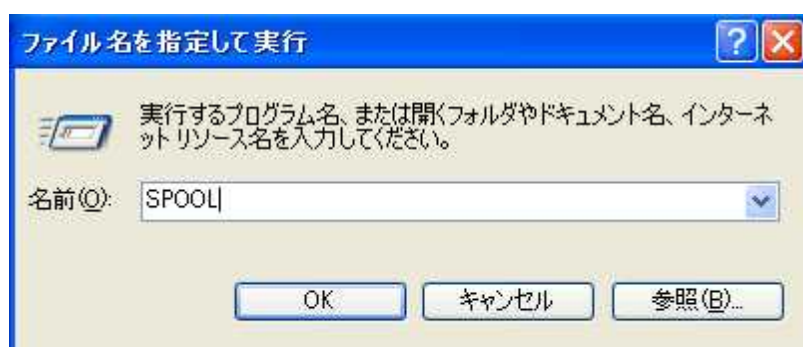
①「コントロールパネル」 --> 「管理ツール」 --> 「サービス」

Print Spooler を右クリックして「停止」する。





② 「スタート」 → 「ファイル名を指定して実行」 から、「SPOOL」を起動する。





- ③ PRINTERS を開いて内容を削除する。  
下の絵のようになれば、OK。画面を閉じる。



- ④①の手順で「停止」したスプーラを「開始」する。

以上で、プリンタに溜まったデータは削除されました。

伝票類などは、先頭から再度印刷を行うと、用紙がもったいないです。  
次に印刷プログラムを実行したときに、用紙の位置合わせ等を確認したら、「印刷開始得意先」を指定して下さい。このコードは、正常に印刷された最後のコードを指定します。

次の例は、「010101000」までは、正常に印刷されたので、そこから最後までを印刷するものです。（省略すると、先頭から再度印刷されます）

■ 検針請求書印刷	
上書	10-06-10 TS-GAS 検 針 請 求 書 印 刷 HNLKENPR V100517
営業所	<input type="text"/> <span style="float: right;">終了</span>
印刷開始得意先	<input type="text" value="0101010000"/> から <input type="text" value="9999999999"/> まで
	指定のないときは先頭からすべてを印刷します。 「から」を省略したときは、先頭から「まで」を印刷します。 「まで」を省略したときは、「から」から最後までを印刷します。
	中間ファイルから印刷データをプリンタに送ります。 中間ファイルの作成は検針請求書印刷(HNLKENSY)(HNLKENS2)で行います。
	印刷を中断したときは、中間ファイルが残っています。中断した途中から印刷 を続けたいときは、上記の 印刷開始得意先 に、得意先コードを入力します。 印刷が完了したときは、最後の「確認」メッセージで、Yesを応答します。
フォーム名	<input type="text"/> 中間ファイル名
印刷件数	<input type="text" value="108"/> C:¥LPG¥PRTWRK1006031140.KEN
印刷先	<input type="text" value="SYSPRT"/>
<input type="text"/>	

## 2.5 データの保存

LPG販売管理のデータは、すべて、LPGDTというフォルダにあります。EXCEL連携や印刷イメージの一時データは、C:\¥LPGフォルダにあります。

通常は、LPGDT内のデータを、毎日および月次で保存して下さい。

保存先は、MOディスク、外部ディスク、CD、DVD、別PCなど任意に決めて下さい。手動で行う場合は、取り外しができる機器（例えばMOディスク）、自動で行う場合には、外部ディスク、別PCがよいでしょう。

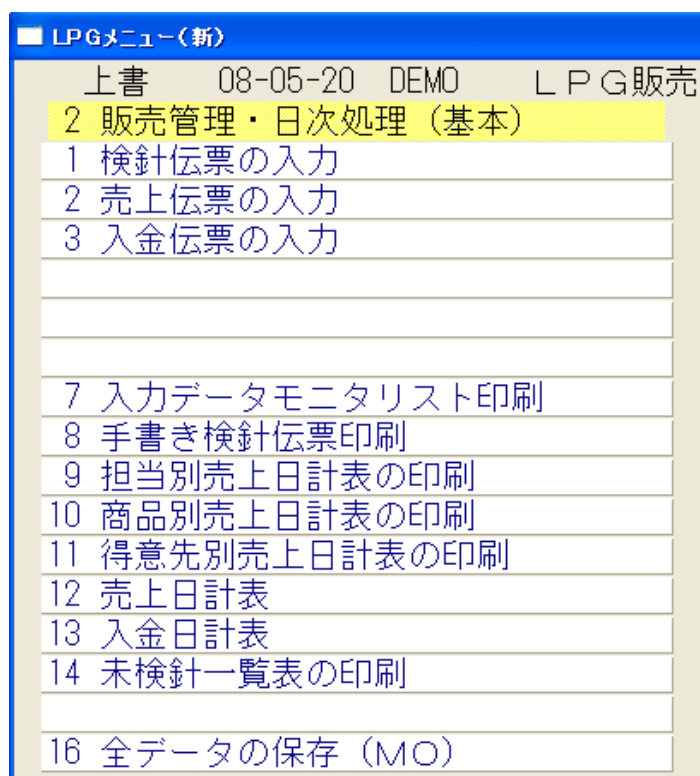
### 2.5.1 LPGデータベースの保存

#### (1) 手動で行う場合1

次のようなコマンドを作り、メニューに登録します。例えば、MOディスクを使用するならば、月曜～土曜で毎日交換、月次で新ディスクのように運用するとよいです。

BACKUP. BATの内容 (Y:\¥LPGBATに作成)

```
COPY H:\¥LPGDT¥*.BTR E:
PAUSE
```



例えば、このように登録します。

メニューは、C:\¥LPG¥NLPGMENU.TXT (BPC)  
C:\¥LPG¥BPFMENU.TXT (BPF)  
です。

## (2) 手動で行う場合 2

標準メニューにある、「MSNITBAK. EXE」を使用すると、日付ごとにデータの保存を行うコマンドを実行時に作成して、実行します。

¥LPGWINフォルダ（BPFでは、¥BPFWINフォルダ）に、次のように、INIファイルを作成します。

MSNITBAK. INIの内容

```
[WINDOW]
MainWinPos=0,0
MessWinPos=0,0
MaxButton=yes
IconButton=yes
SysMenu=yes
OpenSize=Normal
WinSizeChange=on
WindowTitle=(無題)
MessageWindowTitle=(無題)
MainWinSize=102,29
[MSNITBAK]
¥¥2000svr¥YUKIKO2,C:¥BACKUP¥DAY
```

この部分は、  
任意です

(複数行記述できます)

2000SVRのYUKIKO2フォルダ内の、LPGDTを参照して、  
C:ドライブのBACKUPフォルダに、DAYnnフォルダを作成し  
すべてをコピーします。  
nnは、01から31の当日になります。  
C:ドライブには、BACKUPフォルダを最初に作成しておいて下さい。

以下は、20日に実行したときの例です。



## (3) 自動で行う場合

毎日、決めた時間に、2の手順を自動的に実行するように設定することができます。

例えば、C:\PLG\DAYBACK.BAT を作成します。

DAYBACK.BATの内容

```
Y:\PLGWIN\MSNITBAK.EXE AUTO
```

このファイルを、「タスクスケジューラ」で、任意の日付 (=毎日) 時刻で登録しておきます。

## (4) 月次データの保存

月次の場合も、保存する内容は同じです。  
しかし、毎日実行する必要はないので、プログラムを分けています。  
使用するプログラムは、MSGETBAK.EXEです。

[手順]

2と同様に、MSGETBAK.INI を作成します。

MSGETBAK.INIの内容

```
[WINDOW]
MainWinPos=0,0
MessWinPos=0,0
MaxButton=yes
IconButton=yes
SysMenu=yes
OpenSize=Normal
WinSizeChange=on
WindowTitle=(無題)
MessageWindowTitle=(無題)
MainWinSize=102,29
[MSGETBAK]
¥¥2000svr¥YUKIKO2,C:\¥BACKUP¥MANTH
```

この部分は、  
任意です

(複数行記述できます)

MANTHymmというフォルダを作成してコピーします。ymmは、当年当月です。

◎自動実行する機能はありません (2009.01.09現在)

## 2. 5. 2 LPGデータ以外のデータ保存

### (1) フリーソフトを使用してのデータ保存

LPGシステム以外のデータを保存するときに便利です。  
日付の新しいファイルだけを保存するように指定することができ、時間の短縮がはかれます。

① 「役立ちソフト」の「backuptool」から、「BACKUP-1.8.EXE」を解凍してインストールします。（ProgramFilesに登録されます）

② 例 （テキストエディタで作成します）

BACKUP\_MAN.BAT を作成

```
"C:¥Program Files¥Backup¥Backup.exe" C:¥DATA_FOLDER X:¥DATA_FOLDER_MAN -C -S
```

これは、PCのC：ドライブにある、DATA\_FOLDERの内容を、X：ドライブに割り当てた別装置内の、DATA\_FOLDER\_MANという場所に全部コピーするものです。

このコマンドファイルを、月曜日に自動で実行するようにタスクスケジューラに登録します。

同様に、\_MANを、\_THU、... \_SUN のように作成すれば、1週間をサイクルに保存することができます。

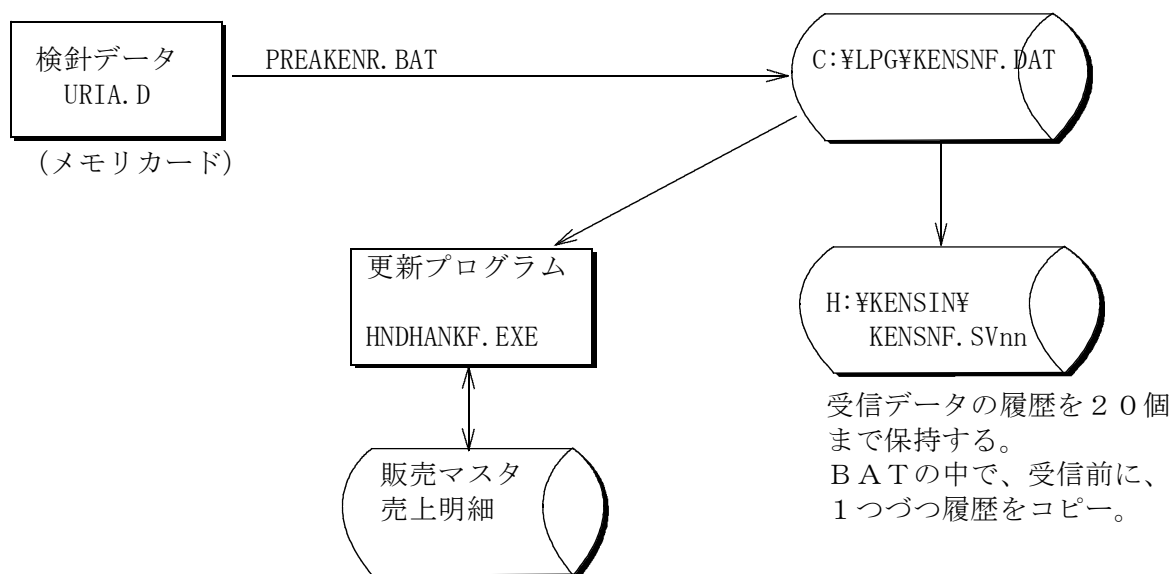
※-C、-Sのオプションは、終了後プログラムを閉じる、開始の確認を行わない、というものです。その他のオプションもありますので、BACKUP.EXE を単独で実行して確認して下さい。

コピー先の、フォルダは、あらかじめ作成しておいて下さい。



## 2. 5. 3 ハンディなどの日次データ

## (1) 検針データ (P r e a 検針)



## [BATの内容]

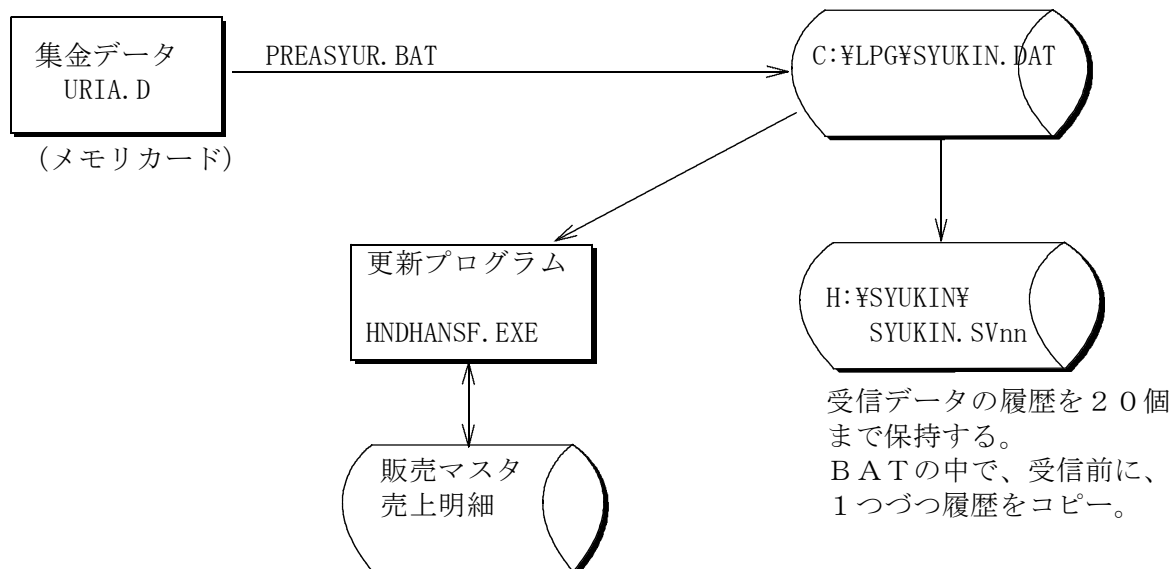
```

@ECHO OFF
REM   ☆☆☆   P r e a 用検針データ受信   ☆☆☆
REM
ECHO.
ECHO   検針結果をメモ리카ードから入力します。
ECHO   メモ리카ードを挿入して下さい。
ECHO   メモ리카ードのドライブは、K: です。
ECHO.
PAUSE
COPY H:¥KENSIN¥KENSNF. SV19  H:¥KENSIN¥KENSNF. SV20
COPY H:¥KENSIN¥KENSNF. SV18  H:¥KENSIN¥KENSNF. SV19
COPY H:¥KENSIN¥KENSNF. SV17  H:¥KENSIN¥KENSNF. SV18
COPY H:¥KENSIN¥KENSNF. SV16  H:¥KENSIN¥KENSNF. SV17
COPY H:¥KENSIN¥KENSNF. SV15  H:¥KENSIN¥KENSNF. SV16
COPY H:¥KENSIN¥KENSNF. SV14  H:¥KENSIN¥KENSNF. SV15
COPY H:¥KENSIN¥KENSNF. SV13  H:¥KENSIN¥KENSNF. SV14
COPY H:¥KENSIN¥KENSNF. SV12  H:¥KENSIN¥KENSNF. SV13
COPY H:¥KENSIN¥KENSNF. SV11  H:¥KENSIN¥KENSNF. SV12
COPY H:¥KENSIN¥KENSNF. SV10  H:¥KENSIN¥KENSNF. SV11
COPY H:¥KENSIN¥KENSNF. SV09  H:¥KENSIN¥KENSNF. SV10
COPY H:¥KENSIN¥KENSNF. SV08  H:¥KENSIN¥KENSNF. SV09
COPY H:¥KENSIN¥KENSNF. SV07  H:¥KENSIN¥KENSNF. SV08
COPY H:¥KENSIN¥KENSNF. SV06  H:¥KENSIN¥KENSNF. SV07
COPY H:¥KENSIN¥KENSNF. SV05  H:¥KENSIN¥KENSNF. SV06
COPY H:¥KENSIN¥KENSNF. SV04  H:¥KENSIN¥KENSNF. SV05
COPY H:¥KENSIN¥KENSNF. SV03  H:¥KENSIN¥KENSNF. SV04
COPY H:¥KENSIN¥KENSNF. SV02  H:¥KENSIN¥KENSNF. SV03
COPY H:¥KENSIN¥KENSNF. SV01  H:¥KENSIN¥KENSNF. SV02
COPY K:¥URIA. D  C:¥LPG¥KENSNF. DAT
COPY C:¥LPG¥KENSNF. DAT  H:¥KENSIN¥KENSNF. SV01
ECHO.
ECHO   5秒ほどお待ち下さい
ECHO.
PAUSE

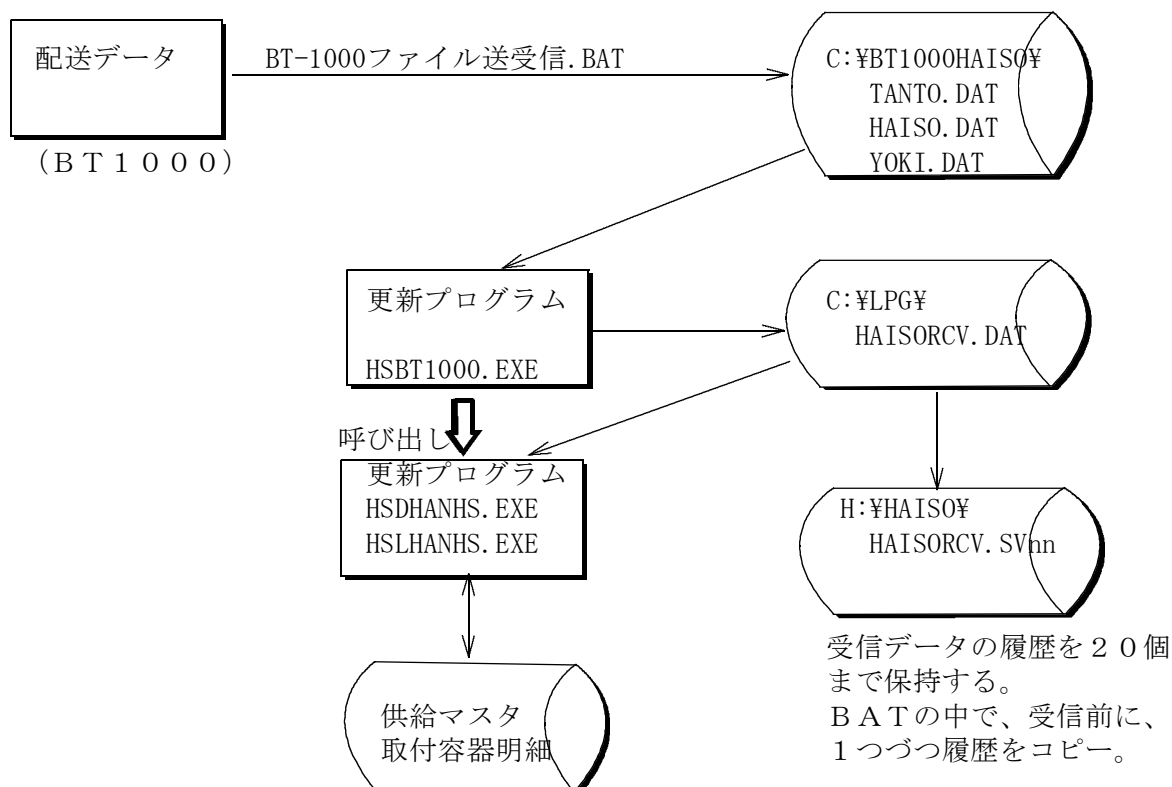
```

REM カード内でバックアップし、現ファイル名は削除  
 COPY K:¥URIA.D K:¥URIA.SAV  
 DEL K:¥URIA.D

## (2) 集金データ (P r e a 集金)



## (3) 配送データ (B T 1 0 0 0)



B T 1 0 0 0からの受信データは、3つに分かれているが、そのまま保存せず、更新形式に変更した、HAISORCV.DATを保存する。